



# 唇が腫れる時



鎌倉市歯科医師会

小林晋一郎

## 唇が腫れる疾患のいろいろ

今回は、唇が腫れてくる疾患についてお話ししましょう。

まず唇に特徴的に生じるのが、肉芽腫性口唇炎。主に下唇に見られ、唇全体が腫れてきます。数時間から数日で自然に消滅しますが、再発を繰り返す、最終的にはゴムのように唇が硬くなってきます。原因ははっきりわかっていませんが、一部は歯の感染病巣によるものと考えられており、歯の治療によって症状が消滅することもあります。また一部では、金属アレルギーとの関連も言われています。唇の腫張の他に顔面神経麻痺と溝状舌を伴うものは、メルカソール・ローゼンタール症候群と呼ばれます。次に、接触性口唇炎。

通常無害と考えられている化粧品や薬品などが触れると、その部分が過敏に反応して突発的に赤く腫れてきます。これは、多くの場合、考えられるものとの接触を避けることで、自然治癒の可能性が高いとされています。そして、クインケ浮腫。突発的に唇が腫れ、2〜

3日で消退するのが特徴です。一種のアレルギー反応と考えられ、血管運動神経の興奮により血管透過性が亢進し、浮腫を生じると言われています。ドイツの医師クインケが初めて記載したので、この名がついています。抗ヒスタミン剤の投与など対症療法を行います。

## 部分的に腫れてくる疾患

唇が部分的に腫れてくる疾患もあります。たとえば粘液嚢胞。唇を噛んだりぶついたりした後、唇の一部が水ぶくれのように膨らんできます。これは唾液の流出障害によるものです。唇にはたくさん的小唾液腺があり、腺体で唾液を作り、導管を通して口の中に唾液を分泌しています。この導管が途中で詰まったり破れたりすると、唾液が排出されず溜まってしまったり、周囲の組織に漏れだしてしまったりするため、その部分が膨らんでくるのです。自然に破裂したり吸収されたりすることもありますが、再発することも多く、腫れが引かない場合は、原因となっていて小唾液腺ごと摘出する

ことになります。

## 良性腫瘍による唇の腫れ

いくつかの良性腫瘍によっても唇は部分的に腫れることがあります。線維細胞が増殖した線維腫や、脂肪細胞が増殖した脂肪腫などです。膨らんでいる以外に特に症状はありませんが、自然に消えることはなく、少しずつ大きくなってきますので、やはり摘出処置が妥当です。

血管内皮細胞が増殖した血管腫も唇によくできる良性腫瘍ですが、これは血管を流れる血液が透けて見えるため、紫色を呈するのが一般的です。経過観察にとどめることもありますが、状況によっては摘出など外科的処置を行う場合があります。

これら以外でも、いろいろな原因で唇は腫れてきます。どの科を受診したらいいか迷うこともあるかもしれませんが、そんな時はまず、かかりつけの歯科医院でご相談ください。必要があれば、大学や総合病院の口腔外科などの専門機関を紹介することもあります。(こはやし歯科)